長洲町立長洲小学校　校長便り　№52

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年11月25日(金)

お知らせ

12月16日は持久走大会の後に、PTA主催教育講演会が実施されます。スマホ等の機器の扱いについてはトラブルに巻き込まれる事案もあり、憂慮すべき実態があります。これからは「使わせない」ではなく、正しく使わせるために大人がサポートしつつ子供達個人での管理ができるようにしなければなりません。

講師の先生は戸田俊文さんで、私も戸田先生のお話を何度かお聞きし、子供だけでなく大人に対しても解りやすく解説してくれます。正しく理解し、適切な使用によりリスクを回避し、ツールとして便利に使っていく方法を教えて頂きます。

保護者の皆様、当日は是非ともご参加頂き、学びをご家庭で共有して頂きたいです。

働き方雑感

最近、片頭痛がする時がある。頭痛というよりは首の後ろ側が痛くなるのだ。「どうも、姿勢の良さは働き方に直結するような気がする」と感じるのは私だけだろうか。この頭痛がする時は、決まってPC作業を長時間した後だ。そういう時は、仕事の実も上がらず、時間の無駄になっている時が多い。背中を丸めてPC画面を見つめ、考えているような姿をよく見かけるが、余り結果にはつながっていないようだ。ある本にこのような文章があった。「姿勢は感情に影響を与える」と。こんな実験があるそうだ。40の単語を見てから8分間歩く。Aによい姿勢であるかせ、Bには悪い姿勢で歩かせる。すると歩いた後に思い出す言葉に差が出たそうだ。Aはポジティブな単語を多く思い出し、Bはネガティブな単語を思い出すことが多いという結果だ。しかも、思い出す単語の量はAの方が多い。これが何を意味するかは自明だ。何をするにも、良い姿勢を保ち、ポジティブにいきたいものだ。

子供達が生きる未来社会③

2045年問題って知っていますか。2045年というと、これから23年後、6年生は35歳の頃、すでに仕事に就き、現場でバリバリ活躍している頃でしょうか。実は2045年、人工知能が人間を超えてしまうということが予想されています。人工知能（AI）が自らを規定しているプログラムを自身で改良するようになると、理論的には永続的に進化を遂げることになります。この結果、ある時点で人間の知能を超えて、それ以降の発明などはすべて人間ではなくAIが担うようになり、それ以降の進歩を予測できなくなるという予想です。すごい世の中ですよね。それを象徴しているドラマが数年前放送されていました。「Doctor X 大門未知子」、この中でAIが手術中の方針を決めるという場面があります。この場面で私が感じたのは、AIに頼りすぎると人間は考えなくなるのではないかということでした。AIは学習を積み重ねていくのでしょうけれど、人間にはAIが及ばない複雑な感情があると思いますし、機械的でなく人間的な配慮もあるように思います。

未来に向けて、私は子供達にAIとうまく付き合っていく術を身に付けてもらいたいなと考える今日この頃です。私もAIについて勉強です。

シリーズ「自分を語る」#52

玉名町小学校での2年目、ここで初の42.195㎞ナイトハイクでした。この行事の凄いところは、味わえる達成感と充実感、友だちとの繋がりの強さを感じることができる点です。玉名町小学校では、ナイトハイクや強歩会では必ず班を編成したので、途中で投げ出す子もいませんでした。どの班にも辛そうに歩く子がいましたが、仲間が荷物を持ってくれたり、声を掛け合ったりしながら、全員の目標に向かってチームで協働することができていました。その結果、達成感や充実感、友だちとのつながりを感じることができるというわけです。この年の子供の中に、平均体重を大きく上回る子供がいました。彼は参加をためらっていましたが、友達からの誘いによって参加を決めた子供さんです。彼はゴールする前の数時間、班のメンバーに脇を抱えられて歩いていました。本人は「途中何度もやめようと思った。」と言っています。その後の彼のセリフには笑いました。周りの子供は「一緒に歩き通そう。」とか「頑張ろう！」と声を掛けてくれていたそうです。行事が終わって本人に「歩き通せたね。」と声を掛けるとこう言い返しました。

「だって、（班のメンバーを指さし）こいつらが無理やり引きずった。仕方なく歩いた。」

みんな大笑いでした。この子の卒業文集には6年生の最高の思い出として「ナイトハイク」のことが書かれていました。その文章の中にこんな一節があります。

「ぼくはナイトハイクの時、参加しなければよかったと何回も思いました。でも、歩き通すことができました。なぜかというと友だちがぼくを引っ張ったからです。その時ぼくは泣いてしまいました。でも、今は感謝しています。たぶんこれからは42・195㎞を歩くことはないと思うし、最初で最後の挑戦だからです。」

彼はその後のナイトハイクのサポートには一度も来ませんでしたが、体重を落とさねばならないと考えたのでしょう、今では私と同じくらいの身長ですが、体重は私よりも軽くなりました。現在彼らは37才、各方面で活躍しています。

平成9年度末、私は校長室に呼ばれました。年度末と言えば学校では次年度の組織をどのようにするか大忙しの時期です。何となく状況を悟りました。「何をしろと言われるのだろう…」と不安になりつつ校長室に入りました。

「おかけください。」

「・・・」

「先生、来年度の学年の希望はありますか？」「できれば5年生をと考えています。」

「6年生はどうね？」「えっ」

組織を考えた末の校長先生の決断ですから、喜んで引き受けました。まぁ、何かあるのだろうと思ってはいましたが、6年生の担任はそれにも増して、遣り甲斐が感じられるものです（私にとっては）。前年度の先生の良い点を活かしながら、自分のカラーを発揮できるようにしようと気持ちを引き締めました。

平成10年度に担任させて頂いた学級は、学級の中に不登校傾向のお子さんがいました。（今では元気に働いていますので付け加えておきます。）不登校傾向の理由はこうでした。「怠惰」です。申し訳ないですが、怠惰に対する大人の毅然さが足りなかったのではないかということを、私個人の感覚として感じました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）